

**授業概要**

「映像文化」は私たちに何を与えたのだろうか。「百聞は一見にしかず」ということわざがあるが、これは「映像を観たという一見」であてはめることができるのだろうか。

映像創世記から、そこに映し出されるものに「事実」はあったのだろうか。この授業では、「映像文化」の持つ大きな力と同時に、それに疑義をもつ考える力を具体的に講義していく。

**授業計画**

第 1 回	映画以前の映像史
第 2 回	日本映画史 明治期
第 3 回	大正期「モダン」映像
第 4 回	古典的ハリウッド映画
第 5 回	戦前期の映画の都
第 6 回	戦中期の大政翼賛会
第 7 回	進め大和さん一家
第 8 回	占領期の啓蒙映像
第 9 回	隠された「原爆」映像
第 10 回	抽象的映画の解明
第 11 回	フィクションとノンフィクション
第 12 回	ドキュメンタリーか物語か
第 13 回	若者文化と学生運動
第 14 回	映画館という場所
第 15 回	グラフィックノーベルと海外アニメーション
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

映像の歴史を学ぶことにより、見えるものだけでなく「見えないもの」を理解し、映像リテラシーを高めることができる。

**履修上の注意**

- ・授業中にノートを取り、わからなかったことについては調べてくること。
- ・授業では積極的な質問をすること。

**予習・復習**

予習：授業最後に次回の予習箇所を伝える。

復習：講義内容を踏まえ、小レポートにまとめる。

**評価方法**

授業態度 20%、授業内レポート 40%、学年末試験 40%

**テキスト**

教科書は特に指定しない。 必要に応じて参考資料を授業内で指示する。